

カラオケ

加藤 誓(ちかい)

令和7年3月13日(木)18:00~20:30 愛知県芸術劇場での「五木ひろし&坂本冬美 ベストカップルコンサート」に女房と出かけた。ショーは素晴らしく2時間30分休憩なく、ぶっ続けで進行した。私達の席は前の方で、良く観えた。

一番前の席は、それぞれの歌手のファンクラブ会員の方と思うが、ペンライトを、皆同じように曲に合わせて左右に振っていた。

後日、女房が「五木ひろし 60 周年記念 Best Songs」の CD を友人から「ご主人に！」ともらってきた。



その友人は、五木ひろしファンクラブ会員で、名古屋公演でも、会場の最前列でペンライトを振っていたひとりで、何組かの CD の購入を引き受ける立場にあるとのこと。

実は、テンポの良いホップ調の五木ひろし氏の歌は、調子に乗れず遅れ気味で、カラオケでは、私には歌えない歌手のひとりであった。

ところが、女房に連れられて今回のコンサートに行き、生の五木リズムを何度も聞き「はあ、こんなリズムなんだ！」と少しだが身体で感ずることが出来た。

この機会を逃さないようにと、頂いた CD5枚を自分の寝室にあるミニ CD コンポで何度も何度も、聞くようにした。

いつしか、何曲かが歌詞は正確でないものの、リズムと音程が頭の中で聞こえるようになった。いわゆる、睡眠学習みたいなものである。

5月第4木曜日老人会カラオケ同好会で偶々、部屋独りの時間があり、「よこはま・たそがれ」と「長崎から船に乗って」を練習した。

何とか、様になったと思ったので、翌月のカラオケ同好会の時は、皆の前で、歌ってみた。少しだが、なんとか歌えそうだと感じた。

今までの持ち歌も、五木ひろしのホップ調のお陰か、リズム感が良くなってきた気がしてきた。これは良い兆候と、寝室で音量を上げ歌うようになった。

突然、「ちょっと！ボリューム下げて↑！時間を考えて↑！」女房のお叱りの声。

その頃、9月17日に催す老人会の長島温泉旅行「伊東ゆかりショー」の車内資料を作っていた。

パソコンで「小指の思い出・恋のしずく」の歌詞を探していた時、YouTube で歌を聞いたり、カラオケも出来ることに気が付いた。

五木ひろしの歌もコンポでの音量でなく、パソコンの音量で声もつぶやくように練習するようになり、お叱りもなくなった。

伊東ゆかりの代表曲のひとつ「誰も知らない」も以前であればリズムについて行けなかったと思うが、五木ひろしリズムのお陰か、練習すれば何とかなりそうである。

今後が楽しくなったと思ったが、これが大きな間違いであることに気が付いた。

カラオケを何回も何回も練習して慣れてくると、知らず知らずの内に音程をはじめ、リズムも段々と自己流になって行くのである。

また、自信がなくなって、歌手の歌を聞き直すことを始めた。

やはり、素人は素人。プロはさすがである。

一旦付いた自己流を直すのは、初めて覚える時より、難しいのである。中々直らない。

とうとう、諦めることにした！

「プロではないし、自分で楽しければ！森繁久彌調もありと！」